



地域安全マップを作製する台北日本人学校の子どもたち。台湾・台北市で2014年12月2日、小宮教授提供

## 日本人学校で安全マップ教室 台湾

立正大が主催した「地域安全マップ教室」(公共政策調査会・保安通信協会寄付講座、後援・「だいたい」)が昨年12月2日、台湾・台北市の台北日本人学校(亀山佳久校長)で開かれ、小学6年生81人が参加した。

小宮信夫立正大教授が危険な景色と安全な景色を見分ける判断基準を教えた後、子どもたちは学校周辺を歩いて調査した。フィールドワークには、立正大の学生10人も指導助手として参加した。犯罪者が好きな景色に気付くようになる学習は海外でも可能で、「景色解読力」を高めれば、日本に帰国後も十分通用するという。